

な か ま

発行

佐倉市立中央公民館
な か ま 編 集 係

〒285-0025

佐倉市 錦木町 198-3

電話 (043) 485-1801

2 ページ	ピアノとの戯れ	山根百合子	小さな旅日記	服部富士子
3 ページ	連 想	坪井栄子	癒しのベンチ印旛沼	原田歌都子

故 郷

栗 田 勢 子

宮古という沖繩と思われ
るでしようが、私の故郷は岩
手の三陸海岸で魚貝類の多く
獲れる小さな漁業の町です。
上野駅から盛岡まで、新幹線
で三時間半……。そこから百 km
の山間を二輦のディーゼル車
で二時間、昭和四十年代まで
は SL が走っていて、トンネル
を出たらまたトンネル……。と、
とにかくトンネルが多い。特
に夏は煙が車内に入り込み白
いワイシャツは衿が黒くな
り、お化粧した顔には煤がつ
き、おまけに鼻の中まで真っ
黒に……。今は懐かしい思い出
です。

若い頃は何の変哲もなかつ
た山間も里帰りする度、年を
重ねると四季折々の風情に
魅了させられました。春は山
の奥の方から鶯の声！山のあ
ちらこちらには薄ピンクの山
桜、里には春の花々、夏は緑
の木々の下を流れる涼しげな
せせらぎの音、秋には山々は
黄色く彩られ、初めて雪景色
を見たのは、父のお葬式の帰
りでした。「遠い所からありが
とう」とお礼にこの絶景を見
せてくれたのかとさえ思いま
した。ピリツとした寒さの中
にも、なぜか暖かさを感じま
した。

海流の変化なのか昔ほど、
魚も獲れなくなつたようです
が、私の子供の頃は、モガ
ニ、アワビ、とにかく魚の種
類が多かつたこと！夏はマン
ボウザメと違って形はわかり
ませんが、真っ白い身を手で
細かく裂き冷たい井戸水で洗
い、キュツとしぼり酢みそで
和えて……。ところ天と同じで何
の味もないのですが、懐かし
い味の一つです。秋はサンマ
船の集まる港で、解禁の朝早
く大漁旗をなびかせ、我先と
朝もやの中に消え、帰つて来
るとサンマを積んだトラック
が、町中を行ったりきたり、
町は活気づきます。ただ若い
女の人は夜、外に出ると危険
な時期でもありました。冬は
南部鼻曲がりサケが、海から
川に大量に上がってきて、新
巻サケとして結構有名ではな
いでしょうか。

観光地として昔、この地を
通つた僧が極楽浄土みたい
美しい浜と絶賛したことか
ら、名付けられた浄土ヶ浜も
あり、そこから車で一時間く
らい、山の中に入ると日本三
大鍾乳洞に数えられ国の天然
記念物に指定されている龍泉
洞もあります。その地底湖は
水深百二十 m で日本一。世界
でも有数の透明度を誇ってい
ます。自然の神秘さを感じ、
まだまだ未知の部分も多いそ
うです。

父、母も亡くなり「故郷は
遠くにありて思うもの」だん
だん遠くなる故郷です。

(編集委員)

ピアノとの戯れ

中耳炎の後遺症の為に、しばらく歌を忘れたカナリア状態だったが、ある日何気なく出かけた成田で「弦まつり」の催しに出合った。力強い津軽三味線や、郷愁を誘う二胡の演奏に、いつしか煩わしい耳鳴りも忘れ、楽器の音色を楽しんでいる自分を発見した。

そうだ！ コーラスは無理でも何か楽器を始めようと、押し入れの奥で眠っていた古いマンドリンを引っ張り出してみた。しかし、付焼刃のトレモ口奏法は右手が腱鞘炎になりそうに挫折。しからばお祭りでピーヒャラ吹く篠笛ならと挑戦したが、これまた変に指先に力が入り過ぎてぎこちない音ばかり。聴くに堪えないと夫に言われ、これもあつけなく蔵入り…。

それ以来悶々とした数か月が続いたある時、孫娘のピアノ発表会があり、そこでとて

も楽しげに演奏する幼い孫を目にした瞬間、再び私の胸中に意欲が湧いてきた。

そして今巡り合えた楽器はデジタルピアノ。これは普通のピアノと違って、ボタン操作一つで様々な楽器音が出るし、自動伴奏も可能である。たとえ左右の手が思うように動かなくても練習は苦にならない。だから無条件に誰でも楽しめる。

これはいけるぞと思いつ、ある時遊びに来た孫娘を驚かそうと覚えたての曲を弾き始めたら、何と彼女は赤鉛筆を片手に持ち、私が弾き間違えるのと情け容赦なく譜面上に赤線をサツと引く始末。挙句に「もっと練習して！」だと。すっかりレベルの低さを見抜かれてしまったが、いつの日にか孫と連弾出来たらと夢を膨らませながらピアノと戯れているこの頃である。

(ユーカーが丘 山根百合子)

小さな旅日記

「結婚式は来年の二月十日にイタリアのヴェッキオ宮殿ですることにした」と長女が言った時、家族三名は驚きの声をあげてしまいました。

平成十一年二月八日成田を離陸、時差の関係から同日の二十時頃ミラノに到着。二人は先にフィレンツェに入っており、片言英語の家族三人旅は不安が一杯です。

九日はミラノ観光です。ドウオモは総面積約一万二千㎡の大聖堂で、百三十五本の尖塔と天井のステンドグラスには目を見張ってしまいました。次いでイタリアン・ブランドの本店がある通りをショッピングし、サンタ・マリア・デレ・グラツィエ教会に向かいました。ここの修道院の食堂にあるダ・ビンチの「最後の晩餐」鑑賞のためです。修復中でしたが、本物を鑑賞した感激は今でも忘れられません。

結婚式当日は雨でした。質

素な外観だが内装は豪華な宮殿での挙式は、伝統服を着た衛兵を従え、厳粛な雰囲気で行われました。立会人は市の職員です。馬車パレードが雨で中止になったのは残念でしたが、二人が宮殿前広場にた時、多くの人が拍手や慶びの声を発してくれました。正に陽気なイタリア人たちの祝福です。

翌日は三名でルネッサンス文化香るフィレンツェの町を散策です。ウフィッツィ美術館でルネッサンスの多くの至宝を、三色の大理石で飾られた完成に百七十五年を要したドウオモ、ミケランジェロ広場等を見学し、翌十二日は有名なピサの斜塔も訪ね、その翌日はミラノに向け三時間弱の列車の旅を楽しみました。

長い歴史と都市独自の文化を育んできたイタリア、今度来る時にはどんな姿で迎えてくれるだろうかを機中で考えながら、この小さな旅が終わりました。

(鍋木町 服部富士子)

連想

十年ほど前、新聞の投稿者の文章に心魅かれてその同年代の女性に手紙を出したことがあった。返事を読んでやはり自分と感覚が似たような方と思えた。彼女はお子さんはまだ小さい時分に事故で失くされたとかで、手紙の結びは「逝きし児の歓声聞こゆ遠花火」。思わず溢れ出る涙を拭うことが出来なかった。

「花火」 夫がまだ在職中だった頃、飛行機上から眼下の花火をしょっちゅう見下ろしていたという話。あっちもこっちもポアンポアンだという。夜空に首を上げ打ち上げ音の醍醐味を味わいつつ、印旛沼花火を見慣れている身にとって、音なしポアンポアンなるものを拝んでみたいと思っっているうち機会を得た。それはまるで小さなステンドグラスのおはじきが弾き出されているようでもあり、緻密に

彩られた花びらが無数、夜空の水面にプカリプカリと浮いては消えるようでもあった。海岸沿いか遠くの川沿いか、東京デイズニーランド辺りかと目はあちこちに泳がされ、眼下の花火もなかなかのものであった。

「眼下の眺め」 これも夫からの話。「まるで海みたい日本中水びたしき」だそうです。満々と水が張られた田植え前後の水田風景。花火のように上から見下ろさなくても想像出来る。ところで夫の母親は農村出身の明治生まれ。今では死語となった早乙女として田植えに従事した年代である。生前彼女は田舎言葉の中に田植えだけは、おたうえと敬語だった。神聖な響きを感じとれたものだ。現代の私はいとうと、水田の脇道を遊びのための車を走らせながら「お田植えや水面に映る天に植え」と詠うぐらいだ。

(新臼井田 坪井栄子)

癒しのベンチ印旛沼

孫と印旛沼のほとりによく散歩に行く。ふるさと広場を通りこし、サイクリングロードに入って二十分ほど歩くと左側に大きなポプラ並木がみえる。その先に、腐食し、くずれかけたベンチが六脚並んでいる。子供たちがこの上から転げ落ちるのを見かけて、常々何とかしなくてはと思っていた。

平成十九年四月、佐倉市民カレッジの二年生へ進級した際に授業の一環として「私たちのまちづくり」の活動が始まった。私は一組の「環境グループ」の一員となり、活動テーマの一つに「サイクリングロードのベンチの補修改善」を提案してグループ全員の賛同を得た。早速、市の公園緑地課へ私たち自身による修理についての許可を申し入れた。市側としても危険な状況は承知していたので順次このベンチの補修改善に取り組むと回

答があった。

九月二十日臼井駅北口の花壇の水遣り当番を済ませ、ふとおもいついて、例のサイクリングロードによってみると立派につくりかえられてあり「ペンキ塗りがたて」の表示がしてあった。

修復されたベンチの出来上がり具合を見て、素人の手では技術的にも経済的にも困難なことが分かった。何も知らない者の強みで随分と無理なお願いをしたものだと思省したが、結果として修理されたベンチで寛いでいる家族連れを見ていると少なからず達成感に浸ることが出来た。

私の提案に賛同してくれたグループのメンバーと協力実行していただいた市関係者へ感謝します。やわらかな光と水鳥によるさざ波や、臼井八景の一つである遠部落雁の、この場所は素晴らしい癒しのスポットとしてよみがえりました。

(江原台 原田歌都子)

2月の黒板

佐倉市民カレッジ特別公開講演会のお知らせ

平成20年2月9日(土)

午前の部 10時00分～12時00分

佐倉学講座

「立見流演武会と佐倉囃子の演奏」

午後の部 13時00分～15時00分

講演会

「見るスポーツの楽しみ方」

講師 日本ランナース ヘッドコーチ 齋藤 太郎

午前の部、午後の部どちらかだけの参加もOKです。



[場 所] 中央公民館大ホール [定 員] 先着100名 [費 用] 無料

[お申し込み・お問い合わせ] 中央公民館へお電話で 485-1801

URL <http://www.city.sakura.lg.jp/kominkan/cyuou/index.htm>

わくわく道

お化け煙突というと、ご記憶の方もいらっしゃると思うが、東京足立区千住桜木町の荒川端に建っていた東京電力火力発電所の四本の煙突。昭和三十九年、東京オリンピックの年に取り壊されたが、見る位置によって二本に見えたり三本に見えたりした。人間、歳をとると時が経つのが早く感じるようになる。

テレビで週一回の同じ番組を観て、少しまえに観たばかりだと思っていると、もう一週間経ったのかと驚いてしまうことがある。パターン化した生活が原因の一つだと思う。毎日、同じような生活を繰り返していると、昨年と一昨年の区別がつかなくなる。お化け煙突のように、昨年と一昨年在り重なり合って二年が一年に感じられてくる。言い換えるれば、時の経つのが早く感じるようになる。

あとき



睦月から如月へと寒さも一段と厳しい季節となりました。カレッジ入学当時にいただいた大文字草も寒さに震えているようです。

事件・事故のニュースが絶えることなく、心まで冷えきってしまったような毎日です。皆様からお寄せいただいた原稿は心暖まるものが多く、人の心と心が繋がっていることを信じさせてくださるもの

ばかりで、読ませていただいて心がほっこりしました。病気に負けることなくご自身の趣味をしつかり手にされた山根様。突然のイタリア旅行を大いに満喫された服部様。一つのできごとから次々面白い世界を展開された坪井様。個人で行うには難しいことも人の力が集まれば大きいことに立ち向かえると教えて下さった原田様。

二月三日の節分は大きい声で(この頃は少し小さく)「オニはそと」と叫んでみました。

(東武)